

第3回 諏訪地域の高校の将来像を考える協議会

事前配布資料

○ 地域産業界からの意見・希望等について

- ・ 原村 . . . P 1
- ・ 富士見町 . . . P 2
- ・ 茅野市 . . . P 3
- ・ 諏訪市 . . . P 5
- ・ 下諏訪町 . . . P 6
- ・ 岡谷市 . . . P 7

※ 会議当日までにご一読願います。

※ 会議当日に、本資料をご持参願います。

令和2年2月14日（金） 午後2時～

諏訪市市役所 大会議室（5階）

諏訪地域の高校の将来像を考える協議会

～地域産業界からの意見・希望～

市町村名： 原村

質問項目	出された意見（まとめ）
①地域産業の特徴・特性 ・課題・可能性など	<ul style="list-style-type: none"> ・農業が主力産業で、工業系の事業所は少なく、観光業は個人営業のペンションが主であり個性は発揮しやすいが、事業主の高齢化とともに廃業となる傾向が強い。 ・農業については「汚い、重い、疲れる、休みがない」等の印象を持たれ、現実が高齢化、後継者不足と言われているが、農業経営の形態も変化してきており地域の特性を生かした産業の一つである。 ・農業においては、就労人口の減少や高齢化に伴い耕作放棄地の増加など課題が山積している。一方、農業へのあこがれや自然回帰の意識の高まりなどにより、若者の就農希望者は増加している。
②産業界として、これから求める人材とその能力（専門性）	<ul style="list-style-type: none"> ・温暖化による気候変動やITを導入した農作物の生産管理、自然環境を意識した農業など高度な専門性と課題を解決するために、粘り強く取り組むことのできる意欲とスキル、ネットワークを有効に活用できるコミュニケーション能力 ・はっきりとした受け答えができ、きちんと挨拶ができる。 ・地域産業に即結びつく人材を期待するべきではない。学んだ知識を生かす職業を選択するのもひとつだが、他産業、他地域、専門外の職業の経験を経た後の人材も大切。
③キャリア教育など、将来の社会人を育てるために高校教育に期待すること	<ul style="list-style-type: none"> ・農業の分野に入ってくるきっかけづくりに、高校がその入り口になってほしい。 ・課題解決を通して探求的に学び続けることのできる力を育てる。 ・パソコン操作の基礎、簿記3級程度の知識の習得。 ・わからないことは、知っている人に聞くなり、自分で調べるなり努力する姿勢が身についていること。
④地域の人材が地域産業に就職するために高校教育に期待すること	<ul style="list-style-type: none"> ・地域にどんな企業があり、どんな事業を行っているか、先生方にも積極的に現場を見学していただき、一層の理解を深め、具体的な内容で生徒に情報提供してほしい。 ・農業や工業などそれぞれの産業の魅力を、実体験を通して感じられる機会を設ける。
⑤産業界の立場から諏訪地域にどのような高校が必要か？	<ul style="list-style-type: none"> ・地区外で学ぶ生徒が増えている現状では、生徒のニーズに合った相応のレベルと、一方では柔軟な学び方ができる学校。 ・観光系統の教育が受けられる高校があると良い。 ・専門学科を総合学科に統合再編する。 ・中学で高校を選択するときは、将来就職する職業の面からではなく学力での選択なので、高校では大学、就職に至る時の知識や基礎学力をつけるべき。
⑥その他、上記以外の意見（自由意見）	<ul style="list-style-type: none"> ・高等教育(大学・専門学校等)が必要とされている現代において、諏訪地域で学びの場を保障することは難しい。首都圏や他地域で学び、諏訪に戻る準備を高校で行うことができればよいのでは。 ・基礎学力をきちんと身につけ、生活習慣のきちんとした人づくりをすることが大切 ・自分の得意なものを一つでいいので、周りにアピールできるようになるまで頑張ってもらいたい。 ・諏訪地域の高校の将来像を考えるうえで、他地域や県外への高校進学でなく、地域内の高校進学を考えなければ、高校教育が衰退するのではないかと不安である。

諏訪地域の高校の将来像を考える協議会

～地域産業界からの意見・希望～

市町村名： 富士見町

質問項目	出された意見(まとめ)
①地域産業の特徴・特性・課題・可能性など	<p>農委) 農業・工業・金融は比較的バランスよい印象を受けるが、近年の商業・IT関連産業を都市部と比べるとやや脆弱性を感じる。</p> <p>JA) 農業生産は、八ヶ岳山麓の1,200mから諏訪湖周辺の760mの標高差がある冷涼な気象状況の中で高原野菜や花きの生産をする県内でも有数の産地である。</p> <p>夏場のセルリーは日本一を誇っているとともに、その他水稻、畜産酪農、果樹の生産など多岐の農業経営が行われる農業生産地域である。</p> <p>近年は、温暖化等の影響で夏季の気象変動が激しく、生産活動に支障がでている品目もあるが、施設化などで対処し産地の維持を図っている。</p> <p>農業生産者の高齢化、後継者不足により、生産量は減少傾向であるが、新規就農者の確保に向けた取り組みを行い、他地域と比べ親もと就農は多く、就農支援に力を注いでいる結果、総生産量を維持している。</p>
②産業界として、これから求める人材とその能力(専門性)	<p>農委) 学生時代には基礎的な知識・技能を習得し、より高度な専門知識は就職後からでも学べる。その資質として他者と協働・協力しながら自己の能力を伸ばそうとする意識を育てほしい。</p> <p>JA) 農業は、国の基幹産業であると同時に、農業は生産だけでなく農村地域、国土保全のための重要な産業であることを植え付ける教育が必要である。</p>
③キャリア教育など、将来の社会人を育てるために高校教育に期待すること	<p>農委) 高校生であっても社会生活や特定企業での就労を経験するインターンシップ制度があってもよくないか。期間も一定程度確保できるとよい。</p> <p>JA) 競争に勝つことばかりではなく、人との協調性を養う教育に期待します。</p>
④地域の人材が地域産業に就職するために高校教育に期待すること	<p>農委) 地域に生活者がいるのは郷土愛があるからであり、地域の良さを見出し、興味を抱くことが必要になる。学校だけで解決しようとせず、地域住民(生活者)とともに展開するカリキュラムの必要性を感じる。</p> <p>JA) 瑞穂の国の根幹である、地域愛、食・農の大切さについての教育をしてほしい。</p>
⑤産業界の立場から諏訪地域にどのような高校が必要か?	<p>農委) 諏訪地域にはほぼ全ての産業が揃っている。高校卒業後に就職を目指す生徒には専門職業校は必要だと考えるが、生徒数減少の状況下では効率的な配置も必要と感じる。専門職業校をひとつにまとめる案も出されるだろうが、農業校は農地・実習施設の確保が不可欠になる。</p> <p>商工会) 園芸課を有する学校は、農地・施設等の実習環境が確保されるべきであって市街地への統合はそぐわない。統合することが必ずしも効率的とはいえないこともある点を検討されたい。</p> <p>JA) 職業科(現在の富士見高校の園芸科)は、存続すべきである。</p>
⑥その他、上記以外の意見(自由意見)	<p>農委) 探求的な学びの方針は賛成する。しかしながら、さらに大学等を目指す生徒が多くあるなかで、受入側(大学等)でも生徒が高校時代に培った能力を正しく評価する体制が整えられていく必要性を感じる。</p>

諏訪地域の高校の将来像を考える協議会

～地域産業界からの意見・希望～

市町村名： 茅野市

質問項目	出された意見（まとめ）
①地域産業の特徴・特性 ・課題・可能性など	<p>特徴・特性</p> <ul style="list-style-type: none"> 産業構造は、電気機械を主体とした製造業を中心に、八ヶ岳や蓼科高原など雄大な自然環境を活かした観光業、地域の暮らしを支える商業、八ヶ岳山麓に広がる広大な土地、農耕地や森林資源を活かした農業・林業及び田舎暮らしに適した移住地推進など、各産業がそれぞれの特性を活かして成長している。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 少子高齢化や人材の首都圏流出による働き手の確保。 介護や建設業など、地域の福祉や生活インフラを支える業種の労働力不足。 AI、IoT等のデジタル技術へ対応した高度な技術力を有する人材の確保。 インバウンド誘致、外国人労働者の重要性による、国際化に対応した専門性の高い人材の確保。 <p>可能性</p> <ul style="list-style-type: none"> 内陸の地方都市でありながら、日本貿易振興機構の支所や税関の出張所があり、地域産業と国際貿易が直結している地域は全国でも珍しい。 八ヶ岳山麓の広大な自然フィールドをステージとした技術実験地としての可能性を有している。
②産業界として、これから求める人材とその能力（専門性）	<ul style="list-style-type: none"> グローバル化に対応した人材。 会社、集団において意志疎通し、協調して業務を遂行するスキル(社会人基礎力)を持つ人材。 ものづくり産業で発展してきた諏訪地域にとって、産業基盤を担うものづくり人材の確保は重要であるが、急速に発展するデジタル社会の到来を受け、各分野でITを活用できる人材が必要。 <p>①主体性②実行力③課題設定・解決能力④チームワーク・協調性⑤社会性⑥理論的思考能力⑦外国語能力⑧創造力</p>
③キャリア教育など、将来の社会人を育てるために高校教育に期待すること	<ul style="list-style-type: none"> 地域産業や地域資源の探求的学習及び多様な社会体験を実現できる教育課程の整備と人材の配置。 地域活動やイベント、ボランティア活動への高校生の参画。 社会人として最低限守らなければならないルール、マナー、モラルを認識し、理解できるような教育の機会。
④地域の人材が地域産業に就職するために高校教育に期待すること	<ul style="list-style-type: none"> 国や地方自治体によるインターンシップ促進補助メニューの充実。 「地方には仕事がない」という漠然としたイメージがあることから、キャリア教育に際しては業種に偏らず、全体を俯瞰して輝く事業者の紹介

質問項目	出された意見（まとめ）
⑤産業界の立場から諏訪地域にどのような高校が必要か？	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に密着した、地域と繋がった高校。 ・土木、観光で即戦力となる、また、IT関連の人材を輩出できる技能学科を持った高校。 ・課題設定力、解決力、トータルコーディネートできる人材を輩出できる総合学科 ・産業の幅が広い地域である一方、家庭事情など様々な状況に応じられる選択肢を確保していくため、最低限の学力と社会人基礎力の教育はいずれの高校でも確保しつつ、個人の希望に応じて進学と専門性の深堀に対応できる体制整備が必要。
⑥その他、上記以外の意見(自由意見)	<ul style="list-style-type: none"> ・就職に関して、学校の進路担当の影響が大きいと感じる。学校側から提示された企業だけでなく、生徒自身が就職先を自由に検討出来る環境づくりが必要。 ・地域の企業について、訪問する機会を設けるなど知ってもらえるような取り組みを積極的に進めて欲しい。 ・白馬高校の国際観光科のように、日本や世界に目を向けた「グローバル」と地域の「ローカリゼーション」の双方を視野に入れた教育を取り入れることで、世界に通じる人材育成を果たすとともに、地元の良さを認識して欲しい。

諏訪地域の高校の将来像を考える協議会

～地域産業界からの意見・希望～

市町村名： 諏訪市

質問項目	出された意見（まとめ）
①地域産業の特徴・特性 ・課題・可能性など	<ul style="list-style-type: none"> ・諏訪は製糸産業以来の「ものづくりのまち」であり、現在は時計・カメラ・電子部品、自動車関連から、医療・航空分野に及ぶ超精密微細加工業の集積地。 ・部品産業のインフラがコンパクトにまとまっていることが、世界的に見ても他の地域にはない大きな特徴であり、市場マーケットは諏訪地域から全国、さらに世界へと広がっている。 ・就業人口では、製造業に携わる人口はそれほど多くなく、減少傾向にある。古くから商業、観光・福利厚生地として栄えてきた歴史があり、第3次産業への就業者が多い。 ・多数の観光資源をもとに観光業に注力すべき。上諏訪温泉をアピールした「温泉を活かしたまちづくり」を進めるためサービス業を伸ばす必要がある。
②産業界として、これから求める人材とその能力（専門性）	<ul style="list-style-type: none"> ・高校や大学等で様々な専門分野を学んだ人材。 ・「人が喜ぶことを素直にうれしい」と感じられ、相手に好印象を与えるコミュニケーション能力のある人材。 ・外国人対応のできるグローバルで、位負けをしない人材。 ・諏訪のまちの将来像。どのようなまちにしていけるのか？その構想を具現化できる人材。
③キャリア教育など、将来の社会人を育てるために高校教育に期待すること	<ul style="list-style-type: none"> ・地域産業に適応できるような人材の輩出。 ・基本的なコミュニケーション能力の育成。
④地域の人材が地域産業に就職するために高校教育に期待すること	<ul style="list-style-type: none"> ・県外の大学や専門学校に進学した人材が、卒業後に地元に戻って就職するために、地元地域や地域産業に魅力を感じ、希望を抱く教育的な機会を増やすことに期待。
⑤産業界の立場から諏訪地域にどのような高校が必要か？	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の発展のためには、全国から多くの人材が諏訪へ集まり、移住してもらうことが大切。そのためには地域の教育環境が優れていることが一つのセールスポイントとなる。諏訪地域には大学進学力のある学力優秀な高校が必要。 ・大学進学に適した県外等の高校へ、地元の優秀な高校生が流れていく傾向がある。対抗できるような大学進学力のある学力優秀な高校が必要。 ・学力的な序列とは異なる価値観を持った、特色のある、グローバルな人材が育つような高校も必要。諏訪にしかないような専門性を持ったコースを設置し、専門的指導のできる教員を配置すれば、県外からも多くの高校生が集まる。
⑥その他、上記以外の意見（自由意見）	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバルな世界に対応できる、グローバルな人材が育つ教育環境が必要。例えば、軽井沢にはアメリカンスクールがあり、帰国子女が学べる環境が整っている。

諏訪地域の高校の将来像を考える協議会

～地域産業界からの意見・希望～

市町村名： 下諏訪町

質問項目	出された意見（まとめ）
①地域産業の特徴・特性 ・課題・可能性など	課題 物づくりに従事する若い人材の不足
②産業界として、これから求める人材とその能力（専門性）	<ul style="list-style-type: none"> ・多少のことではへこたれない逞しい人材 ・ワールドワイドで活躍できるグローバル人材の育成 ・AI時代に対応できるソフトウェア人材の育成 ・ハードとソフトの両面に対応できる複合人材 ・コミュニケーション能力と行動力が高い資質 ・何に対しても好奇心を持つ人材
③キャリア教育など、将来の社会人を育てるために高校教育に期待すること	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら考え行動できる自主性の高い人材を育てる教育 ・頭でっかちでなく、社会の中で自立できるタフで対応能力のある人材の育成
④地域の人材が地域産業に就職するために高校教育に期待すること	<ul style="list-style-type: none"> ・地域にある地元企業に対する理解を高める授業 ・地域企業に対するインターンシップの充実 ・諏訪東京理科大との連携の強化
⑤産業界の立場から諏訪地域にどのような高校が必要か？	<ul style="list-style-type: none"> ・ソフトウェア（AI等）に強い人材を育成する学校 ・理系に強い人材を育成できる学校
⑥その他、上記以外の意見（自由意見）	<ul style="list-style-type: none"> ・普通高校の中にも各学校ごとの特徴付けが必要になっている。どのように学校ごとの差別化をし学生に興味関心を持ってもらえるようにするかが課題

諏訪地域の高校の将来像を考える協議会

～地域産業界からの意見・希望～

市町村名： 岡谷市

質問項目	出された意見（まとめ）
①地域産業の特徴・特性 ・課題・可能性など	<p>・澄んだ空気と豊富な水という立地条件と旺盛な起業家精神で生糸産業を興し、その後、戦争に伴い疎開した企業の技術に加えて、それまでに生糸産業で培われた技術と使用していた工場をベースに、戦後は光学・精密産業に転じ、再び、世界の市場をリードしてきたという華やかな歴史がある。こうした先人たちの築いて来た地域イメージ(精密機械加工・東洋のスイス)が今日もなお強みとなっている。</p> <p>また、この間様々な特色ある中小規模の業種・業態が集積してきて地域内で工程を循環するだけで製品が完結する環境を有するものこの地域の優位性といえる。</p> <p>・経営者の高齢化や産業のグローバル化によるコスト競争、IT産業に代表される技術革新等により、産業、特に製造業者並びに製造従事者の減少が進んでいる。そして、それにより若年層の労働力が地域に留まらずに流出してしまうことで更にその衰退が進むというデス・スパイラル(負の連鎖)になっている。これを止めるには、地域に魅力を創出すると共に、工業系ハード分野に限らずソフト関連やエンターテインメント関連分野等魅力ある産業・企業を育ていくことで若年労働層が、この地域に留まりたい環境づくりをしていく必要がある。</p> <p>・商業会の課題として、経営者の高齢化もあり、後継者が決まっていない経営者が多い、後継者となる意欲やスキルを持った人材を育てる必要がある。また、地域に戻り経営を継ぎたい、事業をしたいという人材を望んでいる。</p> <p>・SNSの普及など経営側、お客側の環境も大きく変化しており、店舗を構えなくて商売ができるなど、意欲があればいろいろな可能性やチャンスがある。</p>
②産業界として、これから求める人材とその能力 (専門性)	<p>・基本的には産業界の求める資質は各高校が教育目標で掲げているものと同様である。更には、コミュニケーション能力やプレゼン能力等の伝える力と変化に対する調整する力も必要と考える。</p> <p>専門性の観点では、今後、様々な産業において、インターネットを介したIT化とグローバル化は、更に発展していくことが予測される。特に、プログラミングをするソフトウェアエンジニアは、AI化が加速度的に進化していく中で、益々その重要性が増している。加えて、これらの分野においては、基本的に言語は全て英語であり、海外のエンジニアとの連携も不可欠となる、この点でもコミュニケーション能力とグローバル化に対応できる人材は、今後の産業界にとっては極めて重要である。</p> <p>この様な将来展望において、産業界としては；</p> <p>①IT関連の専門性(ネットシステム構築、プログラミング等)を持った人材 ②グローバルな対応(語学、海外ビジネス経験等)のできる人材 ③様々な産業を跨いでプランニングとマネジメントができる広範な知識と調整力を持った人材、等が望まれる。</p> <p>・基幹産業が工業であれば、基礎的なスキルを持つ子どもを育てる工業高校は大切である。少子化などが進むなか、そのスキルを育てる学校は今以上に必要である。</p> <p>・SNSの普及など経営側、お客側の環境も大きく変化している。学校の数学や英語といった教科だけでなく、店舗を構えなくても事業が行えるというような実学のことを学ぶ場も必要であり、生きる力のある人材が必要。</p>

質問項目	出された意見（まとめ）
<p>③キャリア教育など、将来の社会人を育てるために高校教育に期待すること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高校教育のみならず、小学校から中学をへて高校に至るまでの12年間における、年齢や段階に沿ったキャリア教育をより厚みのあるものにして欲しい。 ・高校課程では卒業後就職を希望する生徒にはインターンシップを柔軟に運用し、今よりも機会と時間を増やすべきと考える。また普通校など卒業後の進路が就職よりも進学の意識が勝る生徒に対してはボランティア活動等への参加機会を持ち事後にはグループワークやプレゼンを通して地域社会との関わりを深める教育を期待する。またこれらは地域教育にも直結するものと考ええる。 ・地域に戻って経営を継ぎたい、起業したいという人材を望んでいる。どのような高校ならそのような人材を育てることができるのか考えたときに、数学や英語という教科だけでなく、実際の経営など実学を学べる場を作っていく必要がある。また、高校任せではなく、地域と連携してどの学校も取り組んでいただきたい。 ・時代の先端の学びの場を職業高校だけでなく全ての高校でも必要。 ・体験学習や、事業者とのコラボなど地域との連携が必要、事業者と高校とアイデアや意見交換できる場があればと思う。 ・押し付けではなく、自ら考え行動できる学びができる高校であってほしい。 ・高校卒業して進学する生徒や社会人になる生徒など様々であるが、高校は社会へ出る準備ができる学校であることが大切である。
<p>④地域の人材が地域産業に就職するために高校教育に期待すること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域学習や地域教育の時間を増やして座学だけではなく質の高い授業等を期待する。 ・授業等には年齢の近い若手経営者や街づくり等に関わる若者やOBなどを招いて話を聞いたりディスカッションを通して彼らの彼女らの熱い想いを共有することで地域についてより深い関わりと愛着を持たせる。 ・進学等で地元を離れた学生に対しては、地元情報を随時発信する仕組みを作り、例えば出身校や同窓会のホームページにアクセスすると行政や商工会議所やLCVなどにも容易にアクセスでき地元のイベント情報や就職・アルバイト情報などの求人情報等に常に触れられる様にするなど、若者がアクセスしたくなる魅力的なメディアを駆使して長期にわたり継続的に情報発信し続けることが重要である。 ・地域の企業で働きながら企業を知り、仕事内容を知ることができる教育プログラムは重要である。インターンシップ制度に柔軟性を持たせ、ある程度受け入れる企業側との間で期間や条件を摺合せ企業側においてもメリットがでるような仕組みにする。 ・地域とのつながりが、将来の地域産業への就職や、地元での起業につながる。地域と連携し、高校生からも事業者からも話し合えたり、アイデアや意見を交換できたりする場が高校で必要である。

質問項目	出された意見（まとめ）
⑤産業界の立場から諏訪地域にどのような高校が必要か？	<ul style="list-style-type: none"> ・ソフト開発(プログラミング、インターネット関連の開発、WEBデザイン等)やインターネットを介したビジネス等の広範なデジタル・IT関連を教える専門高校(学部、学科でもよい)。 ・ソフトエンジニアのニーズが更に増していくことは明確であるが、現状でも、人材が不足しており、また、新しいデジタル・IT技術のシステムに対応していける人材も望まれており、その様な人材を養成する高校がこの地域に必要である。 ・教える側の教員、講師においても短期的な講習を受けただけの人でなく、実際に経験をしている専門の人材(エンジニア)であることが必要である。 ※小学校でもプログラミング教育を始める中で、現状では、高校でより高度な教育が可能であるか疑問。 ・地域に戻って経営を継ぎたい、後継者や起業したいという人材を望んでいる。どのような高校ならそのような人材を育てることができるのか考えたときに、数学や英語という教科だけでなく、実際の経営など実学を学べる場を作っていく必要がある。また、高校任せではなく、地域と連携してどの学校も取り組んでいただきたい。 ・SNSの普及など生活環境などが大きく変わり、時代の先端の学びの場を職業高校だけでなく全ての高校でも必要。 ・押し付けではなく、自ら考え行動できる学びができる高校であってほしい。
⑥その他、上記以外の意見(自由意見)	<ul style="list-style-type: none"> ・従来までは基礎学力がしっかりしていれば、企業において専門教育をすることで戦力としての人材を育てられたが、現在では、企業にその様な教育をしている余裕と時間がない、つまり企業の教育力の低下が顕著である。 ・現在の様に、目まぐるしい技術の進歩、特に、ソフト関連やインターネットに関連する産業においては即戦力となる人材が不可欠であり、従来までの日本の教育システムでは、少なくともこれらの分野では世界の流れについていけない。特に、この分野において教育システムを見直して早い段階から即戦力となる人材を地域で育ていく環境と仕組みを築いていけば、地域の産業にとって有益である。また、この分野で多くの起業家を輩出すれば、地元へのUターンターンなど他の地域からも人を呼び込む優位性もできるのではないかと考える。 ・先取の起業家精神で一時代を築いたこの地域であればこそ、世界の潮流を読み、その流れに乗っていける人材を育てることが、結果として、この地域の産業の発展にも繋がっていくのではないだろうか。 ・地域教育の部分で、④に書いた若手経営者を招いての授業は労務対策とは別に行い、地域にある商工会議所や商工会、商工会議所青年部、青年会議所、ロータリークラブ、ライオンズクラブなどの経営者団体や街づくり団体、奉仕団体の協力を得て官民一体となって対応する時期が来ていると考える、地元経営者の話は教員が聞いても参考になる事もあるはず、まずは学校側から積極的にアプローチしてみても如何か。 ・産業界では産業振興の先進地視察を積極的に行うのと同様に、学校教育当局又は学校現場の方々にUターンの実績の高い地域の地域教育の方法・内容など現場を視察研修、または出向などを通して良いところを長野県教育に活かしてもらいたい。 ・諏訪実業高校の定時制では、不登校の子どもが多く学んでいるときいた、不登校の生徒の受け皿となる学校も必要ではないかと思う。 ・今後、学校ではパソコンなど情報機器を活用した授業が進んでいく、パソコンやICTに対応していくことは当然であるが、全てパソコンでということではなく、アナログ的な要素も大切であるので、偏りすぎずバランスが必要。 ・統合しても、単に人数が増えたということではなく、統合前とは違う魅力ある学校になって欲しい。 ・勉強ができるというだけでない、子どもの可能性を引き出す学校が必要。